

私立学校特別研修会 外国語（英語）教育改革特別部会 〔西日本エリア（京都）〕 実施報告

一般財団法人私学研修福祉会 主催
一般財団法人日本私学教育研究所 協力 / 日本私立中学高等学校連合会 後援

小学校・中学校・高等学校等を通じた英語教育改革を進める文部科学省では、平成26年度より英語教員の英語力・指導力強化を図る観点から、英語指導力向上事業「英語教育推進リーダー中央研修」を外部専門機関に委託し実施しています。同研修は、全国の国・公・私立学校の英語教員を対象にしているものの、公立学校を中心とした研修の仕組みになっていたことから、私学関係者の要望に応じて、文部科学省は平成27年度より私立学校教員が参加しやすいよう受入体制を整備し、私立学校教員も参加できるようになりました。

しかし同時に、次期学習指導要領や大学入学者選抜改革を含めて国が進める英語教育改革に係る最新の情報が、私立学校には十分に伝わっていない実情もあり、私立学校教員は公立学校教員に比べ情報量が少ない故に垢外に置かれた感は否めません。

については、私立学校においても、外国語(英語)教員の外国語(英語)力・指導力強化を図るためには、教員が21世紀型教育に相応しい最新の教授法と情報を早急に取り入れる必要があることから、当研究所では、平成27年度より専門家の指導による特別研修〈外国語(英語)教育改革特別部会〉を実施しており、平成28年度も引き続き、専門家の指導に上記の「英語教育推進リーダー中央研修」受講者の指導によるワークショップを加えて、研修を実施することとしました。

当部会〔西日本エリア（京都）〕では、初日は京都光華中学高等学校を会場に、英語の授業等の視察、実践発表、視察校の教員を交えて意見交換等を行いました。同校は平成26・27・28年度文部科学省「英語教育強化地域拠点事業」拠点校に私立中学高等学校で唯一、指定されており、また、京都光華 English メソッド ABC (Authentic, Borderless, Communication) に基づき、グローバル社会に対応できるコミュニケーション能力を備えた生徒を育てる英語教育を実践しています。2日目は市内の（アランヴェールホテル京都）において、上智大学言語教育研究センター教授・副センター長の藤田保先生による講演、私学の新しい英語教育の中核を担うべく文部科学省「英語教育推進リーダー中央研修」受講者の指導によるワークショップおよび実践・事例発表を行いました。また、参加者の交流を深めてネットワークづくりを進める情報交換会等、多彩なプログラムを用意しました。

◆ 会 期 ◆ 平成29年2月17日（金）～18日（土）

◆ 会 場 ◆ 京都光華中学高等学校（17日）京都市京都市右京区西京極葛野町38

アランヴェールホテル京都（18日）京都市下京区五条通東鋸屋町179（電話 075-365-5111）

◆ 参加人数 ◆ 37名

◆ プログラム ◆

初 日 ①研究授業（高等学校）（小・中学校〈光華研究発表会〉）視察

②実践発表「グローバル人材の育成をめざした小中高一貫した英語教育の在り方」

発表者 岡崎美紀 京都光華中学高等学校 教諭

③意見交換会（グループに分かれて視察校英語科教諭及び参加者同士で意見交換）

2 日 目 ④講 演 「英語教育改革の現状と今後の展望 ～入試改革の動向を踏まえて～」

講 師 藤 田 保 上智大学言語教育研究センター 教授・副センター長

⑤ワークショップ「英語で授業のヒント Teaching English in English」

(1) Speaking 1 / (2) Speaking 2 / (3) Writing

文部科学省事業「英語教育推進リーダー中央研修」受講者(平成28年度)によるワークショップ

指 導 文部科学省事業「英語教育推進リーダー中央研修」受講者(平成28年度)

⑥意見交換会(「英語教育推進リーダー中央研修」受講者との情報交換を行った。)

※意見交換会では「英語教育推進リーダー中央研修」受講者(平成27年度)より、授業風景の映像を交えた事例紹介も行いました。

◆ 日程概要 ◆

時刻	9	10	11	12	13	14	15	16	17			
2月17日(金) [京都光華中 高]	0	0	0	0	30	0	0	15	40	0	10	0
				受 付	opening ceremony	①授業視察・研究授業		開 会 式	② 実 践 発 表	③ 賞 励 応 答 ・ 意 見 交 換 会		
		30	0	10	10	0	0	45	0			
2月18日(土) [アランヴェ ールH京都]			④講演		⑤ ワ ー ク シ ョ ッ プ	屋 食		⑤ ワ ー ク シ ョ ッ プ		⑥ 意 見 交 換 会	閉 会 式	

※プログラムの内容等は変更となる場合があります。

＜京都光華中高校「英語科・外国語活動実践研究報告会」について…公開研究会には一般の方も参加します。

◆ 学校紹介 ◆

京都光華中学高等学校

理事長 阿部 敏行 校長 長者 美里

中高一貫の女子校。大谷智子裏方（昭和天皇妃／香淳皇后の妹君）が「仏教精神に基づく女子教育の場の実現」のため昭和15年に開校した光華高等女学校からつづく伝統があります。清澄にして光り輝くおらかな女性を育成するにふさわしい名称として名づけられた校名「光華」と校訓「真実心（しんじつしん）」一仏の心（真実＝自己を超えた広大清浄な心）一に建学の精神が込められています。学校目標を「美しいひととなろう」と定め、校訓である「真実心」を備えた女性の育成を目指しています。5つの光華教育（こころの教育、礼儀マナー教育、伝統文化教育、異文化理解教育、言葉の力を育成する教育）を実践し、品性を育み、コミュニケーション能力やリーダーシップ・フォロワーシップを養い、自分自身を確立していく力を養っています。

英語教育においては、平成25年度から京都外国語大学連携科学研究に取り組み、平成26・27・28年度には文部科学省「英語教育強化地域拠点事業」に3年連続で指定され、小・中・高の英語教育の円滑な接続と高度化、自国の文化の理解・発信能力について研究を進めるとともに、グローバル社会に対応できるコミュニケーション能力を備えた生徒の育成をはかっています。

◆ 講師・発表者・指導員（順不同） ◆

藤田 保	上智大学言語教育研究センター	教授・副センター長
長者 美里	京都光華中学高等学校	校長
岡崎 美紀	京都光華中学高等学校	教諭
森田 剛志	滝川第二中学高等学校	教諭
山本 永年	市川中学高等学校	教諭
高橋 昌子	八戸聖ウルスラ学院中学高等学校	教諭
松本 朋之	実践学園中学高等学校	教諭
谷口 毅	近江兄弟社高等学校	教諭
田嶋 博樹	龍谷大学付属平安中学高等学校	教諭
藤本 鷹正	大分中学高等学校	教諭
吉田 晋	富士見丘中学高等学校	理事長・校長

◆ 特別委員・指導員（順不同） ◆

平方 邦行	工学院大学附属中学高等学校	校長
浜野 能男	普連土学園中学高等学校	校長
金丸 紋子	カリタス女子中学高等学校	教諭
池田 あゆみ	京都光華中学高等学校	教諭
川本 芳久	一般財団法人日本私学教育研究所	事務局長代行
山崎 吉朗	一般財団法人日本私学教育研究所	主任研究員

外国語（英語）教育改革特別部会〔西日本エリア（京都）〕 実施概要

平成 29 年 2 月 17 日～18 日に京都光華中学高等学校及びアランヴェールホテル京都を会場に開催。参加者 37 名。同校は平成 26 年度より文部科学省「英語教育強化地域拠点事業」の指定を受けており、3 年次となる今年度の「英語科・外国語活動実践研究報告会」と本研修会初日の同日開催となった。京都光華中学高等学校にてオープニングセレモニーの後、研究授業を見学。その後、当部会の開会式に続き、岡崎美紀・同校教諭、吉田隆昭・同校教諭からの実践発表、研究授業を行った先生方との意見交換会を行った。2 日目はアランヴェールホテル京都にて藤田保・上智大学言語教育研究センター教授・副センター長による講演、文科省事業「英語教育推進リーダー中央研修」平成 27 年度・平成 28 年度受講者の先生方の指導による英語でのワークショップ、意見交換会、また同「中央研修」平成 27 年度受講者の先生による映像を交えた事例紹介が行われた。2 日間を通し、参加者の熱意溢れる充実した研修会となった。

オープニングセレモニー

講堂にて軽音楽部による演奏発表があり、Queen の Bohemian Rhapsody を英語で披露。恵まれた音響環境の元、迫力ある舞台発表でセレモニーの口火を切って頂いた。続いて長者美里・同校校長より学校代表としての挨拶があった。

「英語科・外国語活動実践研究報告会」と「私立学校特別研修会」の同日開催となり、参加者の皆様には何かと不便を感じさせてしまう点もあるかもしれないが、何か一つでも得るものを見つけて持ち帰っていただきたいと思う、とお話し頂いた。



研究授業

5 時間目、6 時間目の英語の授業を見学した。教師も生徒もすべて英語で行われる授業であり、全教室に電子黒板が完備され、活発な発言、ディスカッション、発表が行われていた。どの生徒も英語で発表することに臆することなく、所々笑いも生まれのびのびと授業に参加している様子が伺われた。

・視察校のご厚意で非常に多くの授業を同一の建物内で行って頂き、参加者は小学校、中学校、高等学校 2 時限 17 コマの授業を見学した。生徒は見学者にも英語で挨拶するなど、多くの見学者がいる中でものびのびと授業に参加していた。

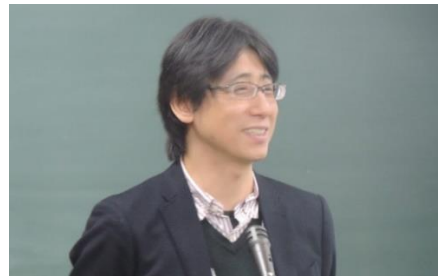


開会式

開会にあたり山崎吉朗・当研究所主任研究員より挨拶があった。中央教育審議会の中の資料に英語教育強化地域拠点事業とあり、大半が公立校の中、私学で唯一、光華女子学園が拠点校として入っている。生徒達が澆刺と英語を話す様子を全国の先生方に見て頂きたいと思い、今回の企画・開催の運びとなった。事例発表・情報交換会もあるので、様々なことをご質問頂ければと思う。先生方にとって良い研修になれば幸いであると挨拶した。

続いて長者美里・京都光華中学高等学校校長より視察校代表挨拶があった。各校種で連携をしながらやっている。言語活動、自然体験、英語に触れることを含めて三本柱で教育を連ねていこうということで、光華研究会光プロジェクトを立ち上げた。公開することで先生も生徒も伸びていくのではないかと考えている。教員はそれぞれのところで一所懸命にやってくれる、子ども達と一緒に伸びていこうとする若い教師集団である。今日は良い機会を与えて頂いた。文部科学省事業の研究報告会と重なり、私立学校特別研修会に参加される先生方には迷惑をかける点もあるかもしれないが、何か一つでも得られるものを見つけて持ち帰ってほしいとお話し頂いた。

2日目に講演を頂く藤田保・上智大学言語教育研究センター教授・副センター長より挨拶があった。研修会は金曜日の公開授業からの参加は初めて、今回京都光華中学高等学校の授業を見られることを楽しみにしてきた。2月14日に次期新学習指導要領等の改定案が発表された。新しい方向性は先生方にとって、場合によっては大変になるかも知れない。しかし、将来の子ども達の未来を考えると間違っていない方向に改革が進むと思う。明日、情報を共有出来れば幸いであると挨拶頂いた。



実践発表

「グローバル人材の育成を目指した小中高一貫した英語教育の在り方」と題して岡崎美紀・同校教諭、吉田隆昭・同校教諭より実践発表があった。参加者からは、「小中高の連携がしっかり取れており素晴らしいと思った」、「段階をしっかりと踏んだ指導が行われていて大変参考になった」等の声が多数寄せられた。

京都光華中学高等学校全体の英語教育について

- 光華メソッド ABC を念頭に置いて日々の授業を行っている。
- 小中高で一貫したカリキュラム・テーマを設け、打合せを丁寧に重ねて、スパイラル状に触れていく教育。学習内容に系統性を持たせている。
- 小学校では発信力の基礎を育成する。中学校ではその上に他者理解・英語での発信力と即興力を育成している。高等学校ではその発信力と即興力を更に育成していき4技能の高度な力を育成していきたいと考えている。
- 言語活動の工夫として、英語を使って何が出来るかを意識している。発信力の強化、聞き手、話し手のスキルを強化。
- 英語に触れる機会を多く用意している。小中高それぞれで朝の短時間の学習活動、英語のコーナーを用意。日常的に英語を利用（英語による朝礼、終礼、ALT とランチタイム、英語による職員室の入退室）。学校行事でも英語に触れる機会を作っている（香港&マカオに研修旅行、スキー合宿(中1, 2) (インストラクターは海外の方)、AUS 修学旅行、ENG village (小学生) 等。人事交流として中高教諭が小学校英語の TT 等の教員の交流と、高校生が小学生に英語でプレゼンするなど生徒同士が授業内外で交流している。また、留学生との交流も行っている。

中学校の英語教育

- 発信型言語活動やりとり、即興型を重視した活動。自分の意見を書いたり述べたりする活動を行っている。スピーチ、ディスカッション、ポスターセッションを行う上で、複数の英語を読み、纏ま

りのある文を書くという流れの中で 4 技能を鍛える。プレゼンやミニディベートのときには ICT 利用や生徒同士の意見交換を行っている。

- My record (自立した学習習慣を身に付ける)
Can-Do リストを提示し学習の見通しをたてる→授業の学習→家庭学習→授業で教員が My record シートをつかってチェック

重点活動

- 質問力・即興力の基礎をつくる言語活動の工夫
Q&A、Let's talk, KOKA talk (chat)の三つの活動を行っている。
- 系統だった発信型言語活動の開発
1 年生で行った活動を 2 年生、3 年生のプレゼン、ディベートなどにつなげて行っており、更に高校につなげている。

課題

- 質問力・発信力に研究の継続、新しい教材の改良。
- 系統だった授業内容の効果検証

高等学校の英語教育

ライラック総合進学コース

- 即興力をつけるための授業の間の帯活動の工夫 (Q&A、enjoy talking, game)
- 基礎作りとして段階を踏んだ音読練習、授業での配付資料を家庭学習の利用、教科書の内容を理解するための Q&A を行っている。

プリムラ特別進学コース

- ディベートの指導内容・方法の充実を図っている。そのために、日々の授業の中で、自分の意見を自由に述べる練習、決められた立場に合う意見を述べる練習、相手の意見を要約する練習を行っている。
- トピックや便利な表現を示した上で活動。これらの語彙等を使いながら発信させる。
- 他教科・他科目との連携
- 英語表現やグラフの読み取り方 (グラフの提示の仕方、数値の変化についての表現) を確認。
- ディベートの最後に、自分の意見を書く活動を入れる。

成果

- スパイラル状に触れる学習によって語彙や知識が深まっている。
- ディベート等の活動では、あらかじめ自分で調べる部分と即興の部分がある。この活動で家庭学習の習慣と授業に集中することができる。幅広い知識や分析する力が身についた。
- パフォーマンステスト、定期テストで評価することで見通しを持って進むことが出来る。
- 生徒が意欲的に検定に取り組み、合格者も増えている。

課題

- 生徒のより正確な英語を目指している。教員自身の知識英語力の充実、ノウハウの共有



分科会 (質疑応答、意見交換会)

実践発表の内容、また授業内容等について、参加者から活発に質問が飛び出す充実した質疑応答になった。そのため、全ての時間を質疑応答とした。My record 等教材についての質問や、パフォーマンステストの実施方法や評価方法についての質問、ICT 活用や授業形態、A L T についてなど幅広い質問が出た。

講演

藤田保・上智大学言語教育研究センター教授・副センター長より、今回は日本語での講演が行われた。「英語教育改革の現状と今後の展望～入試改革の動向を踏まえて～」と題し、Can-Do や CLIL について、また平成 29 年 2 月 14 日に文部科学省より発表された「新学習指導要領等の改定案」の内容についても詳細かつ明瞭な解説を加え、お話し頂いた。参加者からは、「これからの英語教育の方向性が、分かり易い具体例と共に示され大変勉強になった」、「今後何を念頭においてシラバスを考えるべきか改めて考える良い機会となった」との感想が多く寄せられた。

・2030 年に今の子供たちがどのようになっているかを念頭に、学習指導要領の改訂が行われた。今の子供たちの 65% は、2017 年時点で存在していない職業に就く、また現存する職業の 50% が無くなると予想されている。(例: 駅の自動改札化、銀行窓口の ATM 化等)

・先生という職業も、正解や不正解、情報を伝えるのみであれば不要となる。

・正解の無い世界 (VUCA World) では、言われたことを迅速にこなすという今までの教育及び社会スキルは通用しなくなる。そこで、21 世紀型スキルとしての Can-Do リストが必要となる。Can-Do リストを活用することで、習熟度を生徒と教師間で共有し、習熟度が確認できることにより、生徒が自分で何を学ぶべきかが分かり、自分で学び続けることができるようになる。

・CEFR とは、言語の枠を越えて外国語の熟達度を比較する国際基準である。言語を使って「何ができるか」という形で力を表し、A1～C2 の 6 段階で表す。新しい英語教育の目標は生徒の力を CEFR に参照したときのレベルを今よりも良いものにすることである。

・4 技能を測ることのできる TEAP 等外部試験の入試への導入が進んでいる。

・日本の高校 3 年生の英語の 4 技能はいずれも低く、特に writing と speaking では CEFR の最も下のレベル A1 に大半の生徒が分布している。その他の 2 技能も多くの生徒は A1 レベルに位置している。

・新学習指導要領はより詳細になっている。(4 技能から 5 技能へ)

・小中高と連動するように作成されている。

・2020 年より従来のセンター試験から新しいスタイルの大学入試となる。

・「アクティブ・ラーニング」という表現は「主体的・対話的で深い学び」という表現へ改訂。

・教師が教え育む「教育」から生徒と共に育む「共育」へ

ワークショップ

平成 27 年度及び平成 28 年度文部科学省「英語教育推進リーダー中央研修」受講者によるワークショップが行われた。同受講者によるワークショップが当研修会で始まってから 7 回目。今回のテーマは「英語で授業のヒント Teaching English in English (1)Speaking 1 (2)Speaking 2 (3)Writing」が行われた。いずれもペアやグループを組み、ディスカッションの末に発表、という形式で進められ、全員が積極的に参加しているという活発な空気の中で行われた。



意見交換会

これまでの研修会を通じて当研究所に寄せられたアンケート結果に基づき、平成 27 年度の「英語教育推進リーダー中央研修」受講者の山本永年・市川中学高等学校教諭より、実際の授業風景の映像を交えた事例紹介が行われた。また、参加者同士の意見交換会も行われた。

- ・「文法をどのように英語で教えるのか」「単語数 250 語程度のテキストを使用して、どのように英語で教えるのか」を紹介。
- ・無味乾燥したテキストを元にして英語で教えるのは難しいとの声が現場の英語教師から寄せられるが、工夫次第で楽しい授業にすることは可能である。
- ・授業では生徒にペアを組ませ、生徒のどちらかが常に英語を話しているか聴いているかの状態に置く。
- ・既習の単語で説明できると実感させる。
- ・皆が英語で話しているため間違いや言い淀みも気にならない。
- ・授業中はスクリーンを使用し、板書はしない。
- ・「英語教育推進リーダー中央研修」の教材をそのまま使用。
- ・なるべく生徒が話す時間を多くし、教員が話す時間を減らしている。
- ・授業の最後の 10 分間で振り返り・確認作業をし、定着を図る。
- ・授業の実践において常に心掛けているのは、子供たちに頭を使わせ、英語を話させること、子供たちの知っている単語を上手に駆使させること。



閉会式

山崎吉朗・当研究所主任研究員から総括があった。主に、(1)ケンブリッジ英語検定サイトの紹介、また(2)平成 29 年 2 月 14 日付けで平成 29 年度「英語教育推進リーダー中央研修」の案内通知が出ていること、(3)山崎吉朗・当研究所主任研究員が理事を務める一般社団法人 日本外国語教育推進機構(JACTFL)の第 5 回シンポジウムの案内、と 3 点の通達があった。最後に、先生方がそれぞれの学校に戻られた後、今回の研修会の内容を実際の授業や研究に大いに役立てて頂きたいと語った。



◆都道府県別参加者数◆

No.	都道府県名	参加申込数	No.	都道府県名	参加申込数	No.	都道府県名	参加申込数
1	北海道	0	17	石川	0	33	岡山	1
2	青森	0	18	福井	1	34	広島	1
3	岩手	0	19	山梨	0	35	山口	0
4	宮城	1	20	長野	0	36	徳島	0
5	秋田	0	21	岐阜	1	37	香川	0
6	山形	0	22	静岡	0	38	愛媛	1
7	福島	0	23	愛知	6	39	高知	2
8	新潟	0	24	三重	2	40	福岡	5
9	茨城	0	25	滋賀	1	41	佐賀	0
10	栃木	0	26	京都	5	42	長崎	1
11	群馬	0	27	大阪	5	43	熊本	0
12	埼玉	0	28	兵庫	2	44	大分	0
13	千葉	0	29	奈良	1	45	宮崎	0
14	神奈川	0	30	和歌山	0	46	鹿児島	0
15	東京	0	31	鳥取	0	47	沖縄	0
16	富山	1	32	島根	0			
						計		37

アンケート結果 回収率 回収率83.7% (31名/37名)

○問 当研修会への参加目的をお知らせ下さい。

・授業改善のための情報・ヒントを得るため、今後10年間の指導の方向性と具体的な指導体勢について考えるため。

・英語教育の最前線を知るため。

・中高大一貫校として英語教育における最新の動向を知るため。

・アクティブ・ラーニングの実例からヒントを得るため。

○問 当研修会の各プログラム・内容等について、参考になった点、感想、意見等をお書き下さい。

研究授業

・各教室におけるICT設備の充実や、それを用いた授業展開、生徒のハイレベルな活動に本当に驚いた。本校がどれ程遅れをとっているか思い知った。生徒が大変生き生きしていて、私も本校の改革に活かしたいと思う。

・Warming upのテンポの良さ、中身が大変参考になった。英検2級のquestionをテーマにするのは納得だった。私もやらせてみようと思った。生徒達も、自身を持って物怖じせず明るい雰囲気も素敵だった。

・英語を楽しんでいる様子、完璧ではないけれども、自分の考えを相手に伝えようと努力している様子が印象的だった。

・英語科としてのチームワークの良さが随所に見られ本校の参考になる点が多かった。

実践発表

・英語科としての取り組みが素晴らしく、また教材機器も整っており、羨ましい限りだった。また先生方の熱意がとても伝わってきた。

・カリキュラムや授業の中で使う小物など、個人単位でなく一体となって作り上げていく姿勢を見習っていきたいと思った。

・細かいところまで開示して頂き、大変参考になった。教科一丸となつての取り組みに感動した。

・小中高と一貫したコンセプトでプログラム構成されているところが素晴らしいと思った。教師側の工夫で既習範囲だけでも十分活動できる点は参考になった。

質疑応答

・活発なやり取りがなされたが、どの質問も大変参考になった。学校に持ち帰って、他の教員とも共有したい。

・各学校の先生方がかなり興味を示されていたようで、多くの質問が出たことが良かった。教員の英語力向上の課題については、これだけの良い環境にあるのであれば、週1回でも native の教員を含めて英語科の教員の勉強会をすれば良いと感じた。

・間違いを恐れず、積極的に英語を使う環境や雰囲気を作っていくためには、教員全体の理解と協力が必要なのだなと感じた。

・生徒の評価の仕方、ICT の使い方、どの学校も同じ疑問を持っていることを知り今後自分たちもさらにそれらについて考える機会としてとらえることが出来たことと光華女子中高の良い例を聞かせて頂き参考になった。

藤田保先生講演

・これからの英語教育の方向性が、分かり易い具体例とともに示され大変勉強になった。主体的、対話的で深い学びが教育現場で生まれるように自身の指導法を改善したいと思う。

・「使いながら覚える」ということが英語を英語で教えることに疑問を持つ先生方に一つの説明になるかなと思った。

・今までは知識、技能が中心だったが、今後のグローバル化社会ではその知識をどう使うかという思考力、判断力、表現力が必要だということが改めて理解できた。5技能になっていくことに教員もきちんと対応していかなければならないと実感した。生徒が主体の授業を行っていききたい。いろんな例が分かり易かった。

・時代に即した教育界の方向性を示して頂いたが、一つの主題をいろいろなデータや、分野別に説明頂き、内容がとても分かり易かった。今後の意識付けの参考にしたいと思う。

ワークショップ

・実践的な内容で、取り入れたいと思う活動も沢山あった。まだまだ出来ていないことばかりだが、少しずつシフトしていけたらと思った。もっと生徒にしゃべらせないといけないと思った。

・他校の先生方とお話する機会があり良かった。良いアイデアを学ぶことができた。自分が生徒になってみる機会は普段少ないため、生徒視点に返る大切さを思った。

・スピーキング、ライティングの授業を体験し、少しイメージが掴めた気がする。取り入れられるところを、本校の状況に合わせて取り入れ、生徒の英語力向上に努めていきたいと思う。

意見交換会

・短い時間だったが、実践授業は参考になった。各校、それぞれ工夫されていることが分かり、刺激をもらうことができた。

・先生の熱意には、いつも感動してしまう。私も明日から頑張ろうという気がしてきた。

・具体的な授業のビデオ、とても参考になった。生徒に沢山しゃべらせることが、とても大切だと実感した。

・他校の先生方と指導の内容を検討し、悩みを共有することで、英語指導に対して前向きな気持ちになった。

・単に典型的な教え方ではなく狙いが何かをしっかりと定めて、それを活用させることが大事であると改めて感じた。単なる和訳だけでなく考えさせることが第一と感じた。

・山本先生のような授業が理想である。日々の授業(今日見た以外の)も見てみたい。

○問 今後の本研修会への要望等をお書き下さい(例:研修会で取り上げてほしいテーマ、課題、実施してほしいプログラム、継続もしくは改善を望む事項、来年度以降の開催時期等)。併せて、当研究所の研修事業等に対するご意見がありましたらお書き下さい。

・テキストが一番の問題だと感じている。採用している教科書を使って教材を作ることは可能だが、十分な時間があるとは言えない。英語科のすべての教員が英語で授業できるためのテキスト開発を望む。

・準備段階でのプロセスの紹介(こういう研修では完成形しか見れないので)

・効果的な家庭学習の取り組ませ方。E-learning やスカイプを利用した外国の学校との連携。

・ICT を使った例、教材の紹介。